

第3回徳島市男女共同参画推進ネットワーク会議 議事録(要旨)

日 時 令和4年9月29日(木) 13:30~15:00
場 所 ホテル千秋閣 6階 孔雀の間
出席者 20名(委員16名、事務局4名)

1 開会

2 議題

(1)ネットワーク会議の今年度の取組について

事務局より説明

(2)「阿波女」に関するアンケートの実施結果について

坂田委員より説明

(3)ネットワーク会議の今後の取組について

事務局より説明

(各議題についての主な意見)

A 委員 女性が働きやすい社会というのは男性にとっても働きやすい社会で、自分らしく生きていくという環境作りを目指す事が、誰にとってもより良い社会に繋がると思う。その為には、更に一段とペースを上げて推進を進めていく必要があると思う。

B 委員 アンケートは、何も否定しておらず、阿波男という所まで言及しており、男性に自信と誇りを持たせ、更にもっとよりよくしていこうと思わせてくれた。このネットワーク会議においても、肯定的に強みを伸ばしていくような観点で議論をする事が非常に重要なのではないかと。総論的な話し合いではなく、各論が深まっていけばいいのではないかと。

C 委員 企業ではどのようにして育児休業を取得しやすいようにしているのか、現在、男性のほとんどが、育児休業を取得出来ていない状況なのではないのか。技術職など特殊な職業の人に対し、どのように育児休業の取得を促すのか、技術職など特殊な職業は、すぐに代わり的人がいらないのではないかと。

D 委員 周りが取得していないから育休を取れないというような意見が多くあり、所属長の意識を変え、働き方改革に繋がるイクボスセミナーを開催した。今後も取り組んでいきたい。

E委員 実際に育休を経験した男性の意見を内部ニュースに掲載し、所属長や上司自身も取得してみよう、遠慮せず取ろうかなといった意識改革に繋がればと考えている。

F委員 男性が育児休業を取得して、実際に何をするか、具体的に育児休業中にこういう事をすれば良いという内容のセミナーがあるといい。具体的に何をすればいいかわからないまま、育児休業をとってしまうのは非常にもったいない。もう少し男性に具体的に伝える方法があっても良いと思う。

G委員 女子高生に聞くと、リーダーは男性になってほしい、活躍したい、社会に出て自分をアピールしたいという気持ちもあまりないと答える。管理職としての意思決定を持つ人になりたいという意識にするにはどうすればよいか。

県の審議会等で女性の委員 50%というのは、女性参画を意識してされているのではないかと思う。意識啓発アプローチも重要だが、もう一つ議論すべき事は、社会システムの制度設計なのではないか。

H委員 育児休業の取得は、日数や中身も重要だと思う。男性の育児セミナーを開催しているが、なかなか取得率は上がらない。今年は男性の家事に対する興味も上がってきているのではないかということで、男性も参加できる料理のセミナーも企画している。

I委員 女性が活躍するとどのように良くなるか、どういう結果になるかという事を議論しないといけないと思う。これからデジタル社会が進むにつれ、女性の感性が経済の発展に結びついていくと思う。徳島県の強みとして、阿波女をブランド化し、観光振興などに結びつけていく。徳島県の魅力を広めていくという面でも、少しずつ具体的に積み重ねていけばいいと思う。

座長 育児休業を取ってどうするのか、何をするのか、取るだけではなく中身も大事なのではないか。更にはやはり目標や社会のシステムを作っていくのが大切なのではないのかななどの意見が出た。女性活躍、ジェンダーギャップの解消、阿波女活躍の先に何が見えるのか、明るい未来を描きながら、しっかりと私たちは共通認識を持つ必要がある。いただいた意見は事務局でまとめ、これからの施策に反映していければと思う。